まちの話題

地域とともに森づくり 江刈小に県知事感謝状

県植樹祭に参加した江刈小の児童(前列)

江刈小学校（成田不美校長、児童40人）は6月7日、紫波町で開かれた第50回岩手県植樹祭に参加し、増田寛也岩手県知事から「緑化功労者」の感謝状を贈られました。

同校は、明治38年に学校林を設置し、地域の共有財産として現在6.9㌶を管理運営しています。学校林を活用した林業体験や自然観察などに取り組み、地域全体の緑化思想の高揚に貢献。毎年行っている育樹祭では児童や父母、地域住民が一体となって森林整備に努めるほか、町植樹祭などに積極的に参加し、森林環境の保全に尽力しています。同日は、県緑化推進委員会長からも緑化功労者として表彰されました。

和楽器が中高生を魅了 津軽三味線コンサート

和楽器の新しさを発見したステージ

葛巻高校（伊藤正博校長、生徒157人）は6月13日、町内3中学校の生徒を招き、芸術鑑賞会を開きました。今年は、若手演奏家として活躍している福居一大（かずひろ）さんの三味線をメーンに、尺八とピアノ・シンセを加えた「津軽三味線コンサート」。民謡「津軽じょんから節」から「勝手にシンドバッド」などのポップスまで、ジャンルの異なる12曲を楽しみました。

演奏後、生徒を代表して田野沙織さん（葛巻高校3年）が「とても感動しました。日本の古典的な楽器が奏でる音楽は、懐かしく、そして新しい音色で私たちに響いてきました」とお礼のことばを述べました。

星野の良さを再発見 地元を知り楽しむ会

テーマごとに見つけた「お宝」を整理する参加者

星野自治会（本地孝見会長）は6月18日、地元の魅力を探ろうと「星野を楽しむ会」を開きました。

地区の住民、岩手大学の学生ら約50人が「木・花・植物班」「景観・環境班」「神様・歴史班」などのテーマごとに6班に分かれ、午前中は地区の宝となる魅力を調査して回りました。

午後は、調査結果をもとに名称や場所、状況などを記入した「お宝カード」や「お宝マップ」を作成し、班ごとに調べた内容の発表が行われました。

参加者は身近にある大切な資源に改めて気付くとともに、地元の良さを見つめ直しました。

心が弾めば体も弾むよ 増田明美さん学校訪問

「一緒に走ってみよう」声を掛けながら
子どもたちの脇を走る増田明美さん㊧

テレビやラジオ番組など多方面で活躍しているスポーツジャーナリストの増田明美さんが6月28日、五日市小学校を訪れました。

マラソン選手時代には、数々の記録更新やオリンピック出場などの経歴の持ち主。3年ほど前から各地の学校を訪問し、体を動かす楽しさを子どもたちに伝えています。

同校のグラウンドで行われたスポーツ指導には五日市、江刈、馬淵小学校の全校児童95人が参加。増田さんは「気持ちが弾めば、自然に体も弾むんですよ」と話し、子どもたちと並走。走るときに一番大切な腕の振り方や基本姿勢などのほかに、一人一人に合わせた指導も行われました。

電気を消した夏至の夜 再び感じる葛巻の良さ

テントに寝泊まりした旅先での
思い出を語ったスライドショー

夏至の夜、電気を消してろうそくをともす「100万人のキャンドルナイトinくずまき」は6月21日、総合センターで開かれました。

昨年、葛巻から沖縄県西表（いりおもて）島までの往復約6,000キロをヒッチハイクで旅をした眞鍋健二さん（26歳・田子）が、映像と三線の音に乗せ、旅先での出来事を紹介しました。

約6カ月かけて回った旅では、現地の人との触れ合いの中で「食文化や人の違い」を感じ、「葛巻の良さ」を再認識。参加した24人は、キャンドルの明かりにつつまれ、時間やお金では計れない暮らし方に、日常生活を見つめ直した夜となりました。

桜の咲く日を楽しみに 二戸信金が公園に植樹

桜の成長を願い、植樹する一戸秀光理事長㊨

二戸信用金庫（一戸秀光理事長）は6月15日、町に桜の苗木50本を贈り、役場裏付近の「馬淵川さくら公園」に植樹しました。

贈呈式で一戸理事長は「桜が大きくなるのを楽しみにしながら、これからも地域の皆さんと苦楽をともにする信金であり続けたい」とあいさつ。打田内敏明助役は「町民の憩いの場所として桜を大切に育てたい」と感謝のことばを述べました。

植樹には約15人が参加。川沿いにある公園の散策路約400㍍にベニヤマザクラ30本とソメイヨシノ20本が植えられ、記念の標柱が建てられました。